

コバネアオイトトンボ *Lestes japonicus* Selys

【選定理由】

旧市町村単位の絶滅率は100%、現存数は0であり、絶滅危惧 I A 類に相当する（絶滅率・現存数については、資料編：評価方法の詳細を参照）。
愛知県産トンボで、記録が絶えて最も古い種である。

【形態】

金属光沢のある緑の体色をもつ可憐なイトトンボである。邦産のアオイトトンボ属 4 種中、最も小さい。
和名は同属他種に比べて翅幅がやや広く、翅が短く（=小さく）見えることに由来する。



上♂, 下♀.
名古屋市千種区田代町, 1951年10月6日, 高崎保郎 採集

【分布の概要】

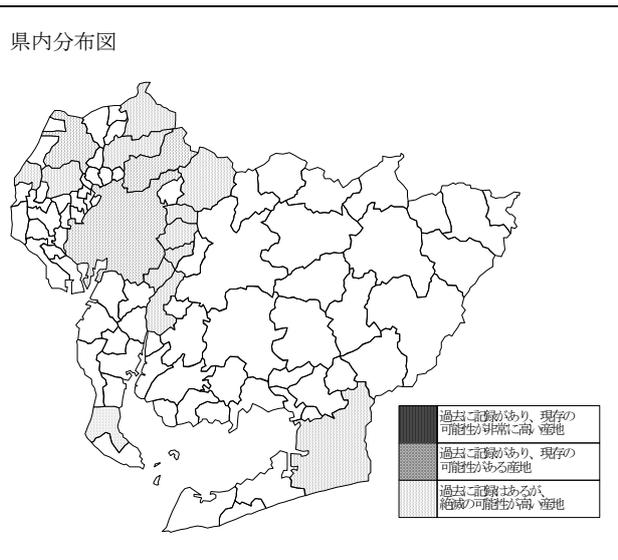
- 【県内の分布】
尾張～三河の平野部から丘陵地にかけての15市町村(旧市町村単位)で記録されている。
- 【国内の分布】
本州東北部から九州南部にかけて記録されている。
- 【世界の分布】
朝鮮半島、中国に分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

成熟成虫は、おもに平地から丘陵地にかけての抽水植物の多い、古い池沼に生息する。未熟成虫は、同属のアオイトトンボ等のように林縁へ移動せず、羽化した付近の抽水植物内で過ごすようである。幼虫は、抽水植物などにつかまっている。秋に産卵された卵はそのまま越冬して翌春孵化し、夏季に羽化する。

【現在の生息状況／減少の要因】

現在、県内に確実な産地はない。1980年代の刈谷市での記録が最後と思われる。
本種は植生環境の破壊等、微妙な環境変化に弱く、他種に先駆けて絶滅することが各地で確認されている。さらに、新天地を求めて移動・分散する力が小さいことも減少に拍車をかけたと考えられる。



【保全上の留意点】

- 1) 幼虫の生息域となる岸辺のヨシ原等の確保
- 2) 成虫の休息域となる水域周辺の草地の確保
- 3) 幼虫／成虫を捕食する可能性のある外来魚の移入禁止

【特記事項】

本種は全国的にも産地が限定され、その原因として、♀の産卵管の未発達による被産卵植物の狭選択性を理由とする見方があるが、比較的組織の堅いヨシやガマへの産卵も見られることから、必ずしもそれだけが分布を決定づけている訳ではなさそうである。
隣県の状況は、三重県は伊賀地方に1箇所、静岡県は西部地方に1箇所現存し、岐阜県は絶滅している。東海地方としてみても危機的な状況にある。
関東地方ではほぼ絶滅している本種が、1996年に横浜市の新しく造成したトンボ池で突然発見された。同池には本種が現存する兵庫県から水草が移植されており、本種の卵も水草と同時に移植されたようである。数年後に同池ではアメリカザリガニが大発生し、それと同時に本種は絶滅したという。安易な植物の移植が生態系を乱す例として紹介しておく。

(吉田雅澄)